

平成29年度第2回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 平成30年2月19日(木)
 午後2時00分～午後3時50分
 開催場所 法勝寺庁舎 2階 会議室
 出席者 陶山町長、井上教育委員、板教育委員、瀬田教育委員、
 畠教育委員 永江教育長
 事務局 松田副町長、唯総務課長、板持教育次長、見世総務・学校教育課長
 書記 総務・学校教育課 渡邊
 欠席委員 なし
 傍聴人 1名(地域住民)

	【開会 午後2時00分】
	【1. 互礼・開会】
	【2. あいさつ】
陶山町長	人口減少社会の中、南部町は何を残し、どのように未来を切り拓いていくのか、これからの教育行政、そして南部町の未来をみなさんと話し合っていきたい。
松田副町長	これより第二期南部町教育基本計画策定に向けて意見交換に入りたい。
	【3. 意見交換】
永江教育長	(第二期南部町教育基本計画 資料説明) 次の二点の課題について意見交換したい。
	①「里地里山」を教育行政と町長部局がどのように連携をとりどう具体的に進めていくのか
	②社会教育の観点から行政と地域の課題と教育行政の関わりについてどのようにしていくのか。
陶山町長	平成28年度だったと思うが、県の進学状況が発表となり、その中で県外に進学した若者のうち3割しか故郷に帰ってこない、残り7割のうち、4割は帰ってきたいと思っているが、それぞれの理由で帰られない、とのことであった。地域で大切に育てた子ども達が積極的に地域に残ってくれる教育を考えなければいけない。人口減少により町に子ども達が帰ってこないことは未来において町が消滅することも考えられる。ここに力を入れた教育を引き続きすすめてほしい。
井上委員	大学に行くと視界が広がり、日本そして世界に向かって仕事がしたくなる、これは良いことだと考える。今回の理念でもある「南部町から未来を切り拓く人づくり」につながると同時に町へ帰って来るといった視点も入っている。
板委員	現在中学校では職場体験があり、早いうちから将来の夢や仕事について考えるきっかけが出来ている。自分の時代はなかったことだ。周りでも地元を愛着をもっている人が都会に行っても帰ってきている。

陶山町長	JOCAや中国、ロシアの青年は自立心を持っているように感じる。生きる力がある。
	昔は大企業を誘致してそこに入ると一生生活が安泰との感覚であったが、今はその
	大企業が業績不振で撤退していく現状で、南部町に帰ってきても今後人口減少の中で
	生活できるかも危ぶまれる。一番信用できる力をどう培っていくのか、これが教育では
	ないかと思う。
瀬田委員	人生の具体的なビジョンをどうするか、これは小学生や中学生では難しく、やはり大学生
	になって、就職が身近になったから考えると思うが、やはり南部町に夢だとか仕事だとか
	具体的なものがあれば、帰ってきやすくなると思う。
永江教育長	まさに、大切な視点である。このことについて、教育行政で何ができるかを考えると、
	「まち未来科」で義務教育の学びを本物の学びに変えていく、充実した学びにしてい
	くことが大切だ。そして地域の課題にしっかりと取り組むことや人生設計をどうしていくかなど
	中学生で学んだことを高校につないでより現実のものとしていく、このことを社会教育でどう
	仕組んでいくか大切になると思う。
畠委員	保小中だけでなく、高校生をどうサポートしていくかが、これから大切になると思う。
陶山町長	先日、鳥取県西部振興協議会での話で、今まで企業誘致で人材を増やすことを
	考えていたが、今は少子化で少ない人材の奪い合いとなり、昔からの歴史ある
	企業が1社、2社と倒産している現状。企業誘致自体をどうするか考えていこうとしている。
	行政運営や財源を考えると、地域経済を考えなければいけない。
永江教育長	このことは教育行政でないと出来ない、ということを考えながら実施していく。自分の町が
	好きだ、チャンスがあれば関わりたいといった子を増やしていくことが教育委員会の
	役割だと考える。
陶山町長	都会から帰ってきた子どもたちが仮に南部町にいて商売をしたいと思ったときに語学力と
	人材ネットワークが必要だと留学生の姿を見ていて感じた。
松田副町長	里地里山や社会教育が地域の課題にどう関わっていくかについてはどうか。
永江教育長	里地里山は大事だとの認識はあるが、どうやっていくかが方向性が定まっていない。
	意見交換したいと考える。
陶山町長	地域の中で何かを行っていくには、一つの理念、骨格となるものが必要で、
	これが里山デザインと考える。この地での生き方をどう設計していくかが大切。
	この里山をどうしていくのかをど真ん中にして地域をマネジメントしていくには、
	地域を循環型にしていかなければいけない。この地域の経済が循環型になれば
	理想的。教育、保健、福祉、医療などが十分に提供される基盤がなければ地域生活は
	ありえない。地域の食べ物、伝統、祭り、あらゆるものを残し、回し、伝えていくことが大切。
	個々が自分の生き方、自分の地域を設計していき、語り合っ作っていくという
	ことがなければ地域経済はありえない。どうかっこよく、誇りを持って生きていけるかを
	各地域で話し合い、組織をつくり、人材、財源が循環できればいい。
	今、円卓会議で各地域を回り色々な話をしているが、里山デザインを推し進める以前に
	急速に各集落の高齢化が進んでいて地域力が低下してきている。
	単なる空家対策ではなく、他の所から空き家に入ってもらって、その方に新しい風を
	入れていただき、地域の力をつけていくことが先決ではないかと考えている。

井上委員	40年前と比べると、山にも手が入らなくなり、山の奥から里山がなくなってきている。 災害も起きやすくなっている。
陶山町長	昔のように、今は木がお金にならない。町で木を売って、そのお金で町内で買い物が出来る といった循環型の仕組みを考えないと里山は守れない。
見世課長	円卓会議にまち未来会議が出張して、奥の方のおじいさんおばあさんと話し合い課題を 共有していくといいのではないか。地域の人とふれあい、子ども達が竹を切ってその代金 が地域通貨で支払われ買い物が出来るといった方向性にするのも一つの考えと思う。
板委員	スポーツで山林に入ることはある。しかし、生活の中で森林を維持していくのは 大変。山の整備は個人では難しい。調整して、コーディネートする人材が必要。
陶山町長	組織化するには人材が必要。最初は行政がしても、運営するには、社会教育の 力が必要。
永江教育長	集落に若い者がいないなら、いるもので課題解決をしていくことが大切。 里地里山についてみんながどう役割分担をし、共通理解していくかを考える 総合本部のようなものが必要と思う。
島委員	清水川の集落もアイデアを出し合いながら、そのアイデアを本物にしていっている。 仕組み作りが大切。
陶山町長	この課題解決の話し合いが地域を活性化していく。
井上委員	遊び心がないと人材は集まらない。
陶山町長	他の町でグリーンツーリズム、学校体験、田植え等をし、100人県外から人がやっ てくると聞くと、イベントだけでは意味がない。
永江教育長	自主防災組織はどうか。自主防災組織は減ってきている。 自主防災と里地里山が絡められないか。我が集落で、保育園の保護者が集まって 自分たちで工夫して色々な物を作っていこうとの動きがある。
陶山町長	共通の関係性がある人が集まればいいが、揃わなければうまくいかないと思う。
板委員	地域振興協議会も人材を見つけるのが大変と聞く。生涯学習も振興協議会とタッグ を組んでいかなければいけない。振興協議会もそれぞれ違いがある。
陶山町長	振興協議会も町からの補助金のみで運営して行っているのは行き詰ってくる。 他から誰かがやって来ることによって集落は他と違っていることがわかる。
瀬田委員	消防団は年寄りと若い世代と連携ができていた。助け合いが大切で 一人ひとりの想いが共有できている。
松田副町長	ビジョンについて何かあるか。
井上委員	幼児教育を挙げているが教育委員会と行政の子育て支援課との業務のオーバーラップ をどう考えるか。
陶山町長	平成30年度より保育の質、保育の目指す方向性、小学校との連携は教育委員会が 責任を持ち、保育の認定については子育て支援課が行っていくと明確となった。 児童館に教育を入れるかどうかは、決まってない。
永江教育長	教育委員会は児童館には関わっていない。ただ、子育て支援課に移管されてから 児童館のスタッフに教員OBを入れる動きが出ている。
井上委員	不登校の児童生徒が児童館を活用するのはどうか。

陶山町長	児童館のコンセプトは「ダメ」と言わないことだと聞いている。
	平日は閑散としている。活用したら良いと思う。
	学校の統廃合について一つの目安としてどう考えるかを聞きたい。今結論は出ないが、
	町長として軸を持っていなければ考える。日南町はPTAより合併してほしいと嘆願書が出たと聞いている。南部町も結論を先延ばしにはできない。次回でも話したい。
井上委員	南部町は遊具がない。子どもが集まって遊べる場所、祖父母と一緒にいける場所を作るつもりはないか。
陶山町長	ポケットパークを作る予定で、話し合いを実施している。町内でも公園がかなりあるが、知らない方が多い。マップを作って誰でもいけるようにしたい。その上で、どんな公園が必要か話し合っていきたいと思っている。若い世代が求めている遊具が昔と違ってきている。
井上委員	大人と一緒にいける場所で作らなければならない。
陶山町長	安来や伯耆町のような、大型の物を作るつもりはない。
井上委員	構えて行くような所でないほうがいい。
陶山町長	統廃合の問題は今後非常に重要な問題と考える。人数が少なくなっても必ず残していくのも一つの選択肢である。教育の中身の問題、通学の距離の問題、PTAの問題など難関は多い。しかし一番重要なのは、どんな義務教育を提供していくかだと考えるので、今後話し合っていきたい。
	【4. 挨拶(総括)】
永江教育長	統廃合については教育の中身が保障できるかどうかで、人数で教育を考えるべきではない。国が標準規模だと言っている形で学校を作るのは間違っていると考える。
	小規模校の問題については、ぜひ町長と意見交換をしていきたい。
	先日教育委員が公式に保育園の訪問を初めて行った。保育園の中身をしっかりと考えていきたい。
	今後も具体的な手立てを教育行政は実施していくが、町長部局と連携を取っていきたい。
	里地里山も一緒に連携を取っていきたいと思っている。
	学校教育も社会教育も融合させながら、一体となってやっていくことが大切である。
	【5. 閉会】
	午後3時50分
	本議事録は、会議の内容と相違ないことを認め、署名します。
	平成 年 月 日
	議事録署名人